

2020 年度SDGs未来都市等提案書(提案様式1)

令和2年2月28日

愛知県犬山市長 山田 拓郎

提案全体のタイトル	社会の魅力を発見・継承する「感性豊かな人間力」の創造
提案者	愛知県犬山市
担当者・連絡先	

1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

1.1 将来ビジョン

（1）地域の実態

（地域特性）

●地理的条件

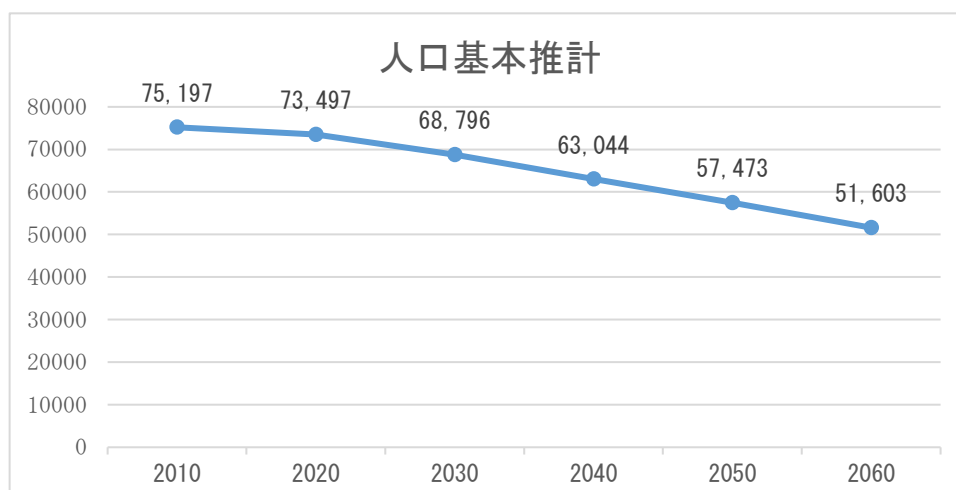
犬山市は、愛知県の最北端に位置し、木曽川を隔てて岐阜県と接している。名古屋市、岐阜市へは鉄道で25分。市の西部は、濃尾平野の一部をなし、市街地、農地、工業地として利用され、市の北を流れる木曽川の一帯は名勝に指定されている。東部の丘陵地は、緑豊かな里山が広がり、国天然記念物のヒトツバタゴ自生地や世界かんがい施設遺産の入鹿池が所在する。面積は74.90km²。



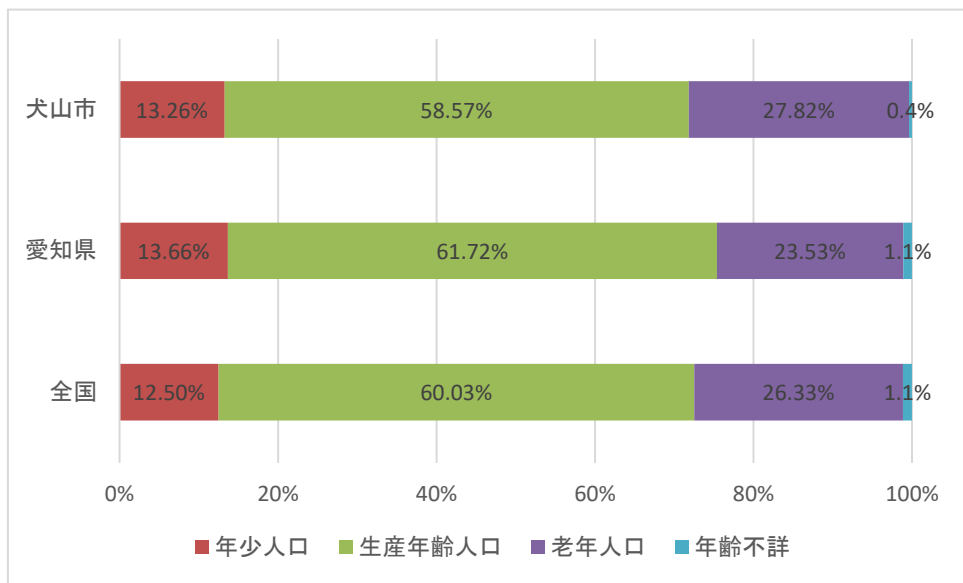
●人口

犬山市の人口は、2008年より自然移動人口が減少に転じた。社会移動人口は増加しているものの、人口全体では2009年をピークに減少が続いている。2016年に作成した人口基本推計では、2030年における人口を68,796人、2060年には51,603人になると推計している。

また、早くから高齢化が進行しており、総人口に占める65歳以上の割合は、愛知県はもちろん全国平均よりも高くなっている。



出典「いいね！いぬやま総合戦略」(2016年3月)より抜粋

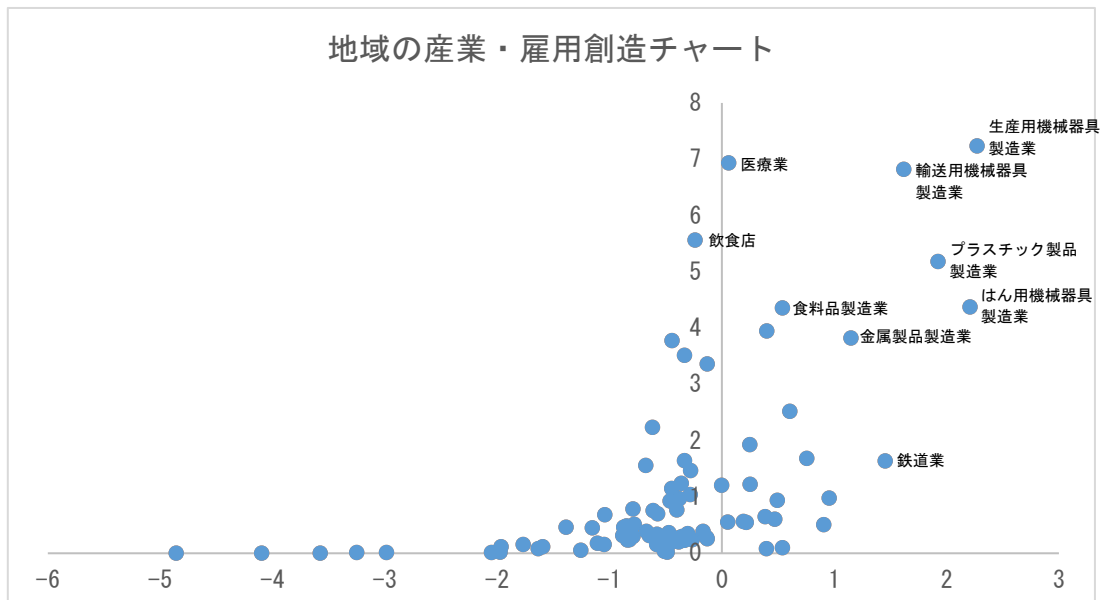


出典「国勢調査(2015年)」

●産業構造

犬山市で働く従業者は、男女ともに「製造業」が最も多い。また2017年の製造品出荷額は463,360百万円だが、これは全国170位となっており、雇用力、稼ぐ力ともに製造業が市を支えている。

また、市内には多くの歴史・文化・自然資源や複数のテーマパークを有し、東海地方では有数の観光都市として知られている。



出典「地域の産業・雇用創造チャート(2016年)」

●地域資源等

歴史・文化資源 … 犬山城(国宝)、茶室如庵(国宝)、犬山城下町、木曾川うかい、
犬山祭(ユネスコ無形文化遺産)、石上祭、
東之宮古墳(国史跡)、青塚古墳(国史跡)

自然 … 木曾川(名勝)、飛騨木曾川国定公園、ヒトツバタゴ自生地(国天然記念物)

特産品 … 犬山焼、桃

その他 … 博物館明治村、日本モンキーセンター、日本モンキーパーク、
野外民族博物館リトルワールド、桃太郎神社、
入鹿池(世界かんがい施設遺産)、犬山成田山

学術・研究機関 … 京都大学霊長類研究所、東京大学大学院農学生命科学研究科附
属演習林生態水文学研究所、名古屋大学大学院環境学研究科附
属地震火山研究センター、名古屋経済大学

●市民活動

犬山市では、2000年度に「犬山市市民活動の支援に関する条例」を制定し、愛知県内の市町村の中でも早くから市民活動を推進するための環境整備に取り組むとともに、市民活動支援センターを設置し、市民活動団体に対して相談・助言などの支援を行ってきた。

2019年度には、まちづくりや地域課題の解決に向けた取組に市民が参加しやすくなるよう、市民・議会・行政の役割・責務、協働の仕組みやルールを定めた「犬山市協働のまちづくり基本条例」を制定した。

2020年度は、市民活動支援センターの機能を拡大した「協働プラザ」を設置し、地縁団体や企業、個人も含めた様々な人材による協働のまちづくりを推進するとともに、「犬山市協働のまちづくり基本条例」を踏まえて、「犬山市市民活動の支援に関する条例」の見直しを予定している。

また、地域の資源(人、モノ、場所等)を共同で利用できるように登録し、有効活用する仕組みとして、「地域資源バンク」を運用し、広範囲の人材を社会参画に導くための情報整備と資源活用を行っている。

●教育施策

犬山市では学校独自の学級編制を行い、35人程度の少人数の学級編制を行うことで、一人ひとりへの状況をきめ細かく把握し、充実した支援を実現させるとともに、どの子ども活躍できる学習環境を整えてきた。

また、独自の副教本の作成・活用、1つの学級を複数の教師が担当して授業を行うTT授業(チームティーチング授業)や少人数授業等により、学習の基礎・基本の定着と意欲的に学習に取り組む姿勢の向上を図る施策を展開し、学びのまちとして特色ある教育活動を展開してきた。

(今後取り組む課題)

自然環境や歴史的風致等の資源があるにもかかわらず、2009年をピークに人口減少に転じ、地域経済も縮小傾向にある。観光については近年の観光施策で多くの旅行者が訪れるようになってきたが、滞在時間が短く、地域で生産される食材の利用や地場産の土産物は少ないため、観光関連の消費は域外に流出し、地域経済の好循環がみられない。

第一次産業は小規模農家が多く、担い手の高齢化等により耕作放棄地が増加しつつあり、犬山産農産物の知名度向上や新たな販路の開拓、6次産業化による特産品の開発などにつながる経営環境の改善が必要である。

人材育成の点では、教育現場において、少人数学級、少人数授業、TT授業(チームティーチング授業)、副教本の作成・活用等、独自性の高い様々な取組を進めてきたが、近年の情報通信技術の進展やコミュニケーション手段の多様化等により、子どもたちの生活スタイルが変化している中で、日本が抱える課題と同様、子どもたちの読解力(※1)向上に資する取組の充実が求められている。

自然環境保護の取組は、地域住民や市民団体等の地道な活動に支えられているが、その取組が犬山市にとって不可欠であるという認識が市域全体に浸透しているとは言い難く、市民の関心の向上、域外に向けた情報発信及び活動への参画拡大が課題である。加えて地球温暖化対策に資するあらゆる知恵や技術の情報を市全体で学ぶ環境が多いとは言えず、この点においても官民連携体制の構築が急務である。

犬山城、犬山城下町、犬山祭等の歴史的建造物や伝統行事が作りだす景観は、そこに暮らす市民にとって生活の一部となっているが、近年の人口減少や少子高齢化に伴い、担い手が不足し、歴史的資源の保存や伝統行事の継承が困難になりつつあることが課題である。

(※1)読解力(犬山市が目指すもの)

本提案書で表記する読解力とは、書かれたテキスト(文章)を理解し、利用し、熟考する能力(PISA型読解力)を基礎として、優れた叙述のよさを知り、自分の考えをまとめ、根拠をもとに自分の考えを伝えたりする力や、他者の感じ方の違いに気付いたり、考えを深めたりする力を含めたものであり、この力をもとに人と人がつながる力を養うことを目指す。

(2) 2030年のあるべき姿

【2030年のあるべき姿】

現在策定中の「第2期 いいね！いぬやま総合戦略」(計画期間:2020年度～2024年度)、2022年度中に策定予定の「第6次犬山市総合計画」(計画期間:2023年度～2034年度)において、SDGsの特徴を本格的に組み入れる予定となっている。こうした計画に位置付けられた各種施策を展開することで、持続可能な社会の実現にむけ、市民、民間企業、小中学校等、官民一体で学び、今後想定される経済、社会、環境面のリスクを共通課題として認識し、その上で人を中心に、豊富な自然も、歴史的風致等の文化も、経済活動も、地域の魅力ある資源を最大限に生かし継承する、新たな価値を生み出しながら持続する、輝きのあるまちづくりが進んでいる。

1 地域資源を活用しみんなが潤う産業振興(みんなが稼ぐまち犬山)

○事業者を始め、各種団体、学生など、さまざまな主体が観光分野に参入・連携して地域経済を活気づかせ、循環させる仕組みを構築し、観光を基軸として産業の裾野を広げ、他にはない新たな魅力・価値をもつ『犬山ならではの』観光産業を展開している。

○シェアリングエコノミーの仕組みを観光分野に積極的に取り入れ、遊休資産の活用や地域資源と個人・団体のスキルを掛け合わせた体験型観光メニューの造成等により、地域課題の解決と観光でみんなが稼げるまちづくりが実現できている。

○小規模農家の育成、起業・継業支援の取り組みで、スキルアップ、やる気アップにつなげ、稼げる農業経営を推進し、持続可能な経済循環の基盤が整っている。

○本市の財産である歴史資源、景観資源、自然資源等を保全しつつ、その魅力を産業に生かす仕組みを整え、持続可能な観光という新たな経済基盤が整っている。

2 地域の未来を担う感性豊かな人づくり(学び・考え・行動するまち犬山)

○技術革新、価値観の多様化等、急速に変化する社会において、過去(歴史)を知り、今を学び、未来を創造しようとする能動的な姿勢と、新たな価値を見出す「感性」が必要であり、そのために地域資源を活用した人材育成が進むことで、誰もが未来の担い手として活躍している。

○市民自らが、まちの課題を見つけ、考え、官民一体となって解決の道筋を導く仕組みを確立させ、多様な人的資源を活用した市政運営による協働のまちづくりが進んでいる。

○子育てママが、自分が望む生き方・働き方を求め、社会で輝き続けるために、起業・就業(復職)支援や交流の場ができており、家族と共に充実した生活を送る、生き生きとした子育てママの笑顔が溢れている。

○シニア世代が感性・知識・経験を活かすための活躍の場が整っており、やりがいのある生活を送っている。

- 小中学校では「読む力」において、年齢に応じた到達点の設定、その達成に向けた指導法が確立できており、その取組の検証と、授業づくりへの反映を進めている。
- 子どもたちの読書環境の充実と図書館活用により小中学生の読書量や読書への意欲が向上している。
- 多文化共生のまちづくりが進み、外国人市民が担い手として地域で活躍できる仕組みづくりを進めている。




3 地域資源から学び未来につなげる自然と生活環境(自然と歴史が持続するまち犬山)

- 市民、民間企業、小中学校等が連携しながら環境について学ぶことで、自然資源を保全し活用する取組が進み、市街地と山間地を人が行きかう生活が実現することで、生活の質が向上し、生活環境全体の調和がとれたまちが実現している。
- 大都市圏の住民を本市の環境学習や実践講習等に招き入れることで、市域を超えた広範囲な環境学習活動のフィールドが提供でき、その機能を発揮している。
- 地球温暖化対策に関する知恵や技術を、市民と民間企業が共に学び、環境に配慮した生活を送っている。
- 犬山城をはじめとした多くの歴史的資源を継承し、景観を守り、共に暮らす生活が持続できている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)




1 地域資源を活用しみんなが潤う産業振興(みんなで稼ぐまち犬山)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 2. 3	指標: 市内第一次産業就業者数	
	現在(2015年): 415人	2030年:
 8. 9	指標: 市内民営事業所数	
	現在(2016年): 2,545箇所	2030年:
 9. 2	指標: 主要な観光施設への観光入込客数	
	現在(2018年): 262万人	2030年:

- ・自然、歴史、景観等を活かした新たな魅力を市内外に広く発信し、観光を産業として成長させることで、交流人口と観光産業従事者の増加を目指す。
- ・シェアリングエコノミーの活用により地域経済の活性化とまちの賑わい創出を目指す。
- ・小規模農家を育成し、兼業・副業で、稼げる農業経営を目指す。

(社会)






2 地域の未来を担う感性豊かな人づくり(学び・考え・行動するまち犬山)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 4. 4 4. 7	指標: 犬山市民総合大学の参加者数(子ども大学の参加者数)	
	現在(2019年度): 829人(380人)	2030年:
 4. 1 4. 6	指標: 子ども読書活動推進行事の参加者数(市立図書館)	
	現在(2018年度): 1857人	2030年:
 5. 5	指標: 東児童センター(さんにいれ)で開催する講座等の参加人数	
	現在(2019年度): 69人	2030年:

- ・生涯にわたり誰もが平等かつ多様に学ぶことができる環境を整備する。
- ・官民が一体となってフレキシブルな市政運営の取組が進む「協働のまち」を目指す。
- ・子育てママの起業・就業(復職)支援や交流の場を創出し笑顔が溢れる社会を目指す。
- ・知識や経験を活かしたシニア世代の活躍の場の創出を目指す。
- ・国語教育と図書館の充実により小中学生の読解力向上を促し、持続可能な社会の実現を担う人づくりを目指す。

(環境)

3 地域資源から学び未来につなげる自然と生活環境(自然と歴史が持続するまち犬山)

ゴール、 ターゲット番号		KPI(任意記載)	
 14. 1  15. 4 15. 5	14. 1	指標: 環境(里山)保全活動に取り組むボランティア登録者数	
	15. 4	現在(2019年4月):	2030年:
	15. 5	106人	125人
 11. 4	11. 4	指標: 文化財建造物の保存修理件数(累積)	
		現在(2020年2月):	2030年:
		27件	
 14. 1  17. 17	14. 1	指標: 木曽川河畔の環境活動への参加者数	
	17. 17	現在(2019年):	2030年:
		115人	

- ・犬山市が誇る美しい自然、里山、歴史的風致を未来に受け継ぐための学習環境を整える取組を進め、市内外に発信することで、自然環境保全や景観保護に対する意識の向上と知識の習得を目指す。
- ・省エネ、低炭素型の製品・サービス・行動等、地球温暖化対策に関する知恵や技術を、市民と民間企業が共に学ぶ場を創出し実践につなげる。
- ・歴史的資源の保護を通じて、昔の生活や文化から得られる知恵と技術を学び、歴史と調和した住環境の実現を目指す。




1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組

(経済)

地域資源を活用しみんなが潤う産業振興(みんなで稼ぐまち犬山)

① 観光を産業の柱へ みんなが潤うまちづくり


ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 8. 9	指標: 市内民営事業所数	
	現在(2016年): 2,545 箇所	2022年: 2,545 箇所
 9. 2	指標: 主要な観光施設への観光入込客数	
	現在(2018年): 262 万人	2022年: 269 万人
 16. 7	指標: 観光まちづくり会議への参加者数(延べ人数)	
	現在(2018年度): 0 人	2022年: 300 人


犬山城をはじめとした多くの歴史・文化・自然等の地域資源を活用し、観光のますますの発展と恩恵を市民にフィードバックするために観光戦略を策定し、戦略的に市内事業者へと波及させる。また、住民、事業者、まちづくり団体等が集い、課題を共有し、解決に向けた取組を実践する「観光まちづくり会議」を開催し、多くの主体が参画する持続可能な観光まちづくりを推進する。

【具体的な取組】

- ・犬山市観光戦略の策定と推進
- ・観光まちづくり会議の開催と課題解決の取組

② 木曾川河川空間を活用した経済の活性化

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 8, 9	指標: 名鉄犬山遊園駅(最寄り駅)の乗降客数	
	現在(2018年度): 604,502 人	2022年度: 620,000 人

 12, 8	指標: 栗栖地区における竹林整備の参加者数(年間延べ人数)	
	現在(2018年度): 217人	2022年: 280人

一級河川である木曾川の河川空間を保全しつつ、水や緑に親しむ場として活用・PRすることで賑わいを創出し、その場所で市内事業者等の新たなビジネスチャンスにつなげる取組を支援する。

木曾川沿いにある里山集落(栗栖地区)において結成した地元有志のまちづくり団体「ミラマチ栗栖」が行う活動を支援する等、小規模農家が生産した農産物を農業祭や収穫祭等で紹介・販売する。


【具体的な取組】

- ・木曾川遊覧船事業の拡充
- ・マルシェイベントの開催
河川空間を利用して地元団体等が実施するマルシェイベントを支援
- ・農業祭、収穫祭の開催

(社会)

地域の未来を担う感性豊かな人づくり(学び・考え・行動するまち犬山)

③ 生涯にわたりみんなが学ぶまちづくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 4. 4 4. 7	指標: 指標: 市民総合大学の参加者数	
	現在(2019年度): 829人	2022年: 830人
	指標: 指標: 子ども大学の参加者数	
	現在(2019年度): 380人	2022年: 400人


市民の知的教養を高めることを目的とし「一般教養学部」と5つの「専門学部」、地元大学と連携した「オープンカレッジ」を開設し、多くの市民に「いつでも」・「どこでも」・「誰でも」自ら学ぶことができる生涯学習の場を提供することで学ぶ市民づくりを推進する。

子どもたちには、伝統文化、美術、実験工作、自然教室等の講座に加え、農業の楽しさを伝える農業学部を開設し、地域の豊かな自然や人材等の資源を活用した「地域の子どもは、地域で育てる」環境づくりを目標に幅広い学びを推進する。

【具体的な取組】

- ・犬山市民総合大学(敬道館)の開催
- ・犬山市子ども大学の開催

④ 独自教育の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 4. 1 4. 6	指標：保護者の学校教育に対する満足度	
	現在(2016年)： 小 82.1% 中 75.8%	2022年： 小中 85%



市費負担教員の採用により学級担任を増やし、35人以下の学級編制に努める。
授業づくりコーディネーターを学校に派遣し、経験年数の少ない教員に対して、学級経営や授業の指導法などについてアドバイスする。

学習や生活に困難を抱える子どもたちの支援を行うため、小中学校に特別支援教育支援員・特別支援教育介助員・医療的ケア支援員を配置し、適切な支援ができるよう研修も行う。

【具体的な取組】

- ・少人数学級編成・TT(チームティーチング)授業・特別支援教育
- ・副教本の作成・活用
- ・学校図書館の活用
- ・幼保小連携推進

⑤ 子育て世代と女性の活躍があるまちづくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 5. 5 8. 8  8	指標：東児童センター(さんにいれ)で開催する講座等参加人数	
	現在(2019年度)： 69人	2022度： 130人

東児童センター(さんにいれ)を拠点ステーションとして、主に子育てママを対象に活躍応援ネットワークを構築し、子育て情報の発信や、女性の活躍を応援するための講座の開催、シェアリングサービスを活用した子育てと女性の活躍に資する事業を実施する。



【具体的な取組】

- ・子育て家族が気軽に集えるステーションの運営
- ・公的支援に頼らない情報収集・発信力強化
- ・子育て支援ネットワークの構築
- ・ITを活用した子育てシェアリングの推進

(環境)

地域資源から学び未来につなげる自然と生活環境(自然と歴史が持続するまち犬山)

⑥ 水辺空間の保全

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 14. 1 17. 17 	指標: 栗栖地区における竹林整備の参加者数(年間延べ人数)	
	現在(2018年度): 217人	2022年: 280人
	指標: 木曽川河畔の環境活動への参加者数	
	現在(2019年度): 115人	2022年: 200人

木曽川沿いの親水空間の保全を市民等と協働して進めることで、参加者に河川空間の役割や大切さを伝える。

長年管理がされず、竹や草木が生い茂っていた木曽川の栗栖地区河畔を、遊歩道として整備し、地域の新たな名所として賑わいを創出する。整備にあたっては、地元有志のまちづくり団体「ミラマチ栗栖」が中心となって学生ボランティアも参加し共に実施する。

【具体的な取組】

- ・栗栖地区の親水空間の復元(竹林遊歩道整備)
- ・近隣自治体と連携した木曽川清掃活動(川と海のクリーン大作戦)
- ・市内の水辺空間(河川、ため池等)の維持活動への支援

⑦ 里山を守り活かす学びの場づくりと担い手の育成

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 15. 4 15. 5	指標: 環境(里山)保全活動の担い手育成講座参加者数	
	現在(2019年度): 12人	2022年: 20人

犬山里山学研究所(NPO団体)、地域住民等と協働で、里山に親しむための子どもから大人(三世代交流)までを対象とした各種講座を開催し、その講座の指導やサポートをする環境保全の担い手の育成講座も同時に継続的に実施する。

放置されつつある里山に人の手が入るとともに、講座をきっかけに里山に入ることで、里山への関心が高まり、さらなる里山の保全につなげる。

【具体的な取組】

- ・環境ボランティア団体との連携による犬山里山学センターでの環境学習の推進
- ・里山探検隊教室、環境学習講座、学校授業支援
- ・ボランティアの人材育成
- ・希少生物の調査、おさかなレスキュー、ふれあいの森での間伐実習

(2) 情報発信

(域内向け)

SDGsを達成するためには、市職員だけではなく、多くのステークホルダーをはじめ、市民一人ひとりがSDGsの目標達成のために取り組むことが必要となる。まずは市職員がSDGsの取組への理解を深め、担当業務とSDGsとの関係を認識し、職員一人ひとりが担当業務において市民と接する機会や市民に対して情報を発信する機会に、SDGsについても併せて情報を提供する。

また、市の広報誌、公式HP、SNS等の各種媒体に加えて、地元タウン誌、地元FM放送局とも連携し、市だけでなく民間企業や各種団体のSDGsの取組を紹介する予定である。

- ・広報誌、公式SNS … 広報犬山、Facebook、LINE、Twitter
- ・その他 … 愛知北FM放送局
- ・市民及び民間企業向けのSDGs推進セミナー等の開催

(域外向け)

SDGs未来都市に選定された愛知県及び他自治体と連携して、県内への情報発信に取り組む。また、3つの姉妹都市と情報共有し、相互に連携してSDGsに取り組む。

犬山市は古くから観光地として知られており、全国から観光客が訪れている。こうした利点を活かし、観光施設や各種イベントを通じ、全国へ犬山市のSDGsの取組を発信する予定である。

姉妹都市 … 富山県立山町(1973年～)、宮崎県日南市(2000年～)

兵庫県丹波篠山市(2014年～)

(海外向け)

前述の観光客には外国人も多く含まれており、外国人観光客を通じて、海外へ犬山市の取組を発信する。また、犬山市では城下町界隈で、世界や日本の“お酒”をテーマにした“祭り”(ワインまつり、ビールまつり等)を開催しており、このような交流の場も活用し情報発信を行う予定である。

近年では、外国人留学生や市内の外国人技能実習生も多く居住している。こうした人たちに、生活の中で犬山市の先進的な取組を知ってもらい、得た知識を母国へ持ち帰ってもらうことは、海外への情報発信に大きく寄与するものとする。(公式HPは5か国語対応) 今後は友好都市等との連携も検討する予定である。

友好都市 … 中華人民共和国湖北省襄陽市(1983年～)

ドイツ連邦共和国ラインラント＝プファルツ州ザンクト・ゴアルスハウゼン市(1992年～)

姉妹都市 … アメリカ合衆国カリフォルニア州デービス市(2001年～)

大韓民国慶尚南道咸安郡(2014年～)

(3) 普及展開性(自治体SDGsモデル事業の普及展開を含む)

(他の地域への普及展開性)

犬山市における取組の核は、豊富な地域資源を活かしてSDGsの目標達成を担う人材を育成することにある。

地域資源を豊富に有している自治体は多くはない。しかし、人材育成、特に子育てや小中学校における教育については、人口減少の中で多くの自治体に移住・定住の目玉として掲げている分野であり、先進的な取組は全国の自治体が注目し、類似の地域資源を持つ自治体へ普及展開していく可能性が高い。

加えて、犬山市で学んだ人材が他の地域で活躍することも、本取組の普及展開につながるものである。

(自治体SDGsモデル事業の普及展開策)

三側面をつなぐ統合的取組では、「感性豊かな人づくり」を目指し、そのための読解力向上や読書活動の推進を掲げている。

犬山市の取組は、小中学校だけにとどまらず、幼稚園、子ども未来園、図書館等が連携し、地域住民と共に読解力向上に取り組むものである。

2018年の学習到達度調査(PISA)では、日本は読解力が15位となり、2015年調査の8

位から後退した。次世代を担う人材育成、そのための読解力向上については、どの自治体も取り組むべき問題であり、本市の取組はそのモデルケースとなりうる。

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映

1. 犬山市総合計画

2022年度に策定を予定している次期総合計画(計画期間:2023~2034)では、SDGsの目標達成に向けた犬山市の考え方や方向性を示すとともに、SDGsの体系に沿って施策・事業を整理する予定である。

なお、現行の総合計画の改訂(2017年3月)にあたっては、下記2. いいね! いぬやま総合戦略の策定後に改訂しており、人口減少、地域経済の縮小といった課題に取り組み、持続可能なまちを目指したものとなっている。

2. いいね! いぬやま総合戦略(地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略)

この戦略は、人口減少、地域経済の縮小という課題に取り組み、持続可能なまちを目指したものとなっておりSDGsの理念に沿ったものである。

2020年3月の策定に向けて作業を進めている第2期戦略(計画期間:2020~2024)では、SDGsの体系に沿って重点事業を整理している(重点事業にSDGsの169のターゲットを意識して、該当する17のアイコンを掲載)。

また、「目指す姿」の中では、犬山市の魅力として、「子育て」、「教育」に加え「誰一人取り残さない=誰もがいきいきとしている」と明記している。これは、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」まちを犬山市の魅力の一つとして、移住・定住を促進し、地方創生の実現を目指すものである。

加えて、SDGsについて紹介するページを設け、市民等への普及啓発の一端を担うものとする予定である(素案策定済。2020年2月パブリックコメント。同3月策定予定)。

3. 犬山市環境基本計画

2020年度の策定に向けて取り組んでいる環境基本計画(計画期間:2020~2030)では、5つの分野における基本目標に、SDGsの該当するゴールを位置づける予定となっている。また、「計画の目的と位置づけ」の文章の中では、本計画の推進にあたっては、SDGsの達成に向けて、経済・社会・環境をめぐる様々な課題の解決に資する取組を記載する予定である。

4. 犬山市子ども・子育て支援事業計画

現在、策定を進めている第2期犬山市子ども・子育て支援事業計画(計画期間2020~2024)では、その目的や位置付けの中で、SDGsを踏まえて本計画を策定することを明記している。

また、基本施策の中の「具体的な取組み」について、169のターゲットの中から、子育て分野の目標として位置づけるとともに、その実現を目指していくものである。

5. その他

2018年度以降に新たに策定または改訂する各種計画においては、計画の性質によって記載方法は異なるが、SDGsの理念を反映させた内容に改訂する方針が決定している。

(2) 行政体内部の執行体制

犬山市のSDGs実現のための取組の推進に係る本部機能として、全庁の幹部が一堂に会する経営会議を位置づけ、計画や取組の全庁共有や部局間連携の調整、進捗管理等を行う。

経営会議

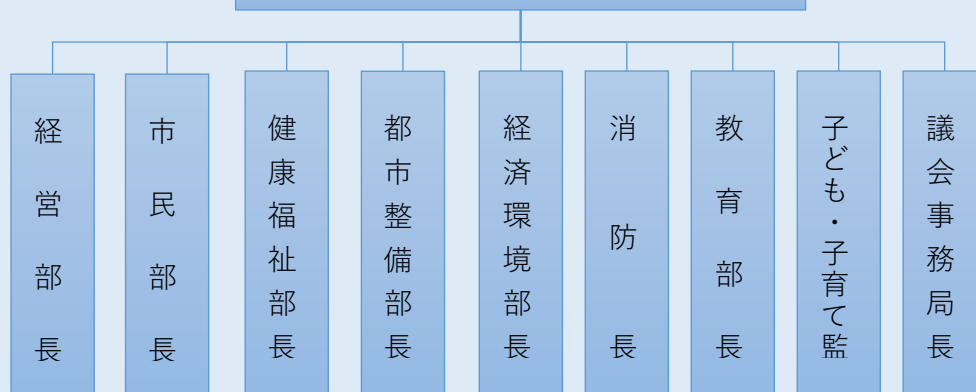
構成員：市長、副市長、教育長、部長級の職にある者

役割：最高意思決定のための協議の機能

目的：次の政策的事項について協議

- ・ 市政の将来計画、長期計画及び年次計画に関すること
- ・ 主要事務事業の執行計画に関すること
- ・ 全庁的な連絡事項に関すること
- ・ 進捗管理 等

市長・副市長・教育長



(事務局：経営部企画広報課)

(3)ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

(市民)

犬山市では、2019年6月に「犬山市協働のまちづくり基本条例」を制定した。この条例では、『犬山市が将来にわたり活力あるまちであり続けるには、地域・世代・性別・民族・国籍を問わず、市民・議会・行政がそれぞれの役割と責任を自覚し、お互いに尊重し合いながら、協働して課題解決に取り組むことが重要』と記載するとともに、『市民憲章の理念を胸に、このまちに受け継がれてきた豊かな財産を次世代へとつなぎ、誰一人取り残されることなく、笑顔があふれ幸せな生活をおくり続けられる「持続可能なまち」を実現する(条例前文より)』ことを目的としており、SDGsの理念を取り込んだものとなっている。

現在は、この条例の普及啓発と、条例の実践に取り組んでおり、まさに全市をあげてSDGsの理念の実現に取り組もうとしているところである。

(民間企業・金融機関・地元大学)

犬山市では、2016年に市内金融機関、商工会議所と「地方創生にかかる包括連携に関する協定」を締結し、連携に向けた事業を模索している。

また、2019年より市内の事業者、商工会議所、観光協会、大学、金融機関等で産業振興施策について話し合う産業振興会議を立ち上げた。こうした会議でSDGsを題材とすることで、産学金官が連携した取組が促進される。

また、商工会議所と地元大学である名古屋経済大学と犬山市は、2007年に連携交流に関する協定を締結し、それぞれのトップが集まる産学官連携推進協議会(年2回)を開催するとともに、実務担当者レベルでの懇談会(年2回程度)を開催し、地域課題の解決に向けた協議を行うことで、犬山市の持続的な発展のために連携を図っている。

(その他、教育・研究機関)

前述の連携交流に関する協定に加え、下記の協定(覚書)を締結しており、今後、協定等に基づき、相互の利益となるようなSDGs達成に向けた取組について、連携・協力手法を検討する。

- ・交流に関する覚書(京都大学霊長類研究所)
- ・地域交流に関する協定書(東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所)
- ・相互友好協力協定書(名古屋工業大学、中部大学)

(市民活動団体等)

犬山市では、他自治体に先駆けて市民活動支援を行ってきた。2020年度からは、これま

での市民活動支援センターの機能を拡大した「協働プラザ」を立ち上げる。それぞれの活動内容によってゴールは異なるが、市民との協働＝パートナーシップによりSDGsを推進していく。

2. 国内の自治体

(愛知県、愛知県内のSDGs未来都市)

2018年度に豊田市、2019年度に愛知県、名古屋市、豊橋市がSDGs未来都市に選定されており、既に愛知県が県内市町村を対象にSDGs未来都市担当者会議を開催した。こうした先行自治体と連携して、愛知県内の他市町村へSDGsの普及展開を図る。

(その他)

1.2(2)情報発信に記載した国内の姉妹都市だけでなく、鶴飼、国宝五城、歴史的風致維持向上計画認定都市等の共通の文化を持った自治体と相互に連携した取組を展開する。

3. 海外の主体

(友好都市等)

1.2(2)情報発信に記載した海外の友好都市、姉妹都市と相互に連携した取組を検討していく。

(4) 自律的好循環の形成に向けた制度の構築等

市内民間企業と連携し、自律的好循環の形成に向けた登録・認証制度の構築に向け、下記の事項を検討している。2020年度に策定が予定されている国のガイダンス等も参考にして実施の適否・手法等を決定する予定。

1. 講習(研修)受講証明書の発行

市内民間企業向けに講習(研修)を開催し、受講者に証明書を発行する。市内事業者がSDGsを広めるという点では最も即効性があり取り組みやすいが、それゆえに持続性や事業者の理解度を深める取組が別に必要である。

2. 既存制度の活用支援

市内民間企業に対して、SDGsの普及と企業支援という2つの側面から、市内事業者(事業所)が既存の表彰制度やSDGs金融商品・サービスを活用しようとするときに市が支援を行う。支援方法は、助言や専門家派遣、あるいは補助金といった方法が考えられる。

2. 自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）

2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

(1) 課題・目標設定と取組の概要

(自治体SDGsモデル事業名)

新しい価値を生み出す「感性豊かな人づくり」

(課題・目標設定)

- ①経済面の課題： 地域資源を生かした産業振興・小規模農家の育成と農地保全
- ②社会面の課題： 地域課題を解決する人材育成・協働意識向上と地域コミュニティ強化
- ③環境面の課題： 歴史的資源との共存・低炭素社会の実現に向けた環境意識の向上

ゴール2、ターゲット2. 3

ゴール4 ターゲット4. 1、4. 2、4. 6

ゴール8、ターゲット8. 1、8. 9

ゴール11、ターゲット11. 4、11. 7、11. a

ゴール13、ターゲット13. 2、13. 3

ゴール17、ターゲット17. 16、17. 17



(取組概要)※150文字

豊かな自然と歴史の恵みに生まれ受け継いできた文化、その中で培われた地域の絆の強さといった本市が有する社会的資源について、ここに暮らす人々が学び、その魅力を活用し、新たな価値を生み出すことで、経済的に潤い、社会的つながりを強め、自然を守りつなげることで、豊かで輝きのあるまちづくりを実現する。

【経済面の課題】

- ・豊かな自然環境や歴史的風致等、受け継いできた資源がある一方で、2009年をピークに人口減少に転じ、地域経済も縮小傾向にある。産業構造としては製造業が中心で、東海地方有数の観光地でありながら、観光分野の占める割合は約10%と少ない(2016年経済センサス活動調査)。
- ・第一次産業は小規模農家が多く水稻栽培が中心で、生産される食材の利用や地場産の土産物は少ないこともあり、観光関連の消費は域外に流出し、地域経済の好循環がみられず、十分な恩恵を受けていない。

【社会面の課題】

・地域課題の要因は複合的であり、解決していくためには市民活動のみならず、多様なセクターの連携・協働が不可欠でありながらも、現状それらは個別に機能しており、課題とプレーヤーの間を取り持つ中間支援機能の強化と担い手の育成が課題となっている。

・人材育成の点では、「犬山の子は犬山で育てる」という考えのもと、人格形成と学びを広げ深めるために、少人数学級、TT 授業(チームティーチング授業)、副教本の作成・活用など、様々な取組を進めてきたが、近年の情報通信技術の進展やコミュニケーション手段の多様化等、社会全体が急速に変化する今、子どもたちの「読む力」を高める国語教育の充実を図り、感性豊かな人づくりにつながる教育が求められている。特に子どもたちの読解力低下は日本全体が抱える問題となっており、「基礎的読解力」に困難を抱える子どもの支援策も含めて、国語教育・図書館活用授業の充実が求められている。

【環境面の課題】

・自然環境や動植物を守り次世代へと引き継ぐ取組は、環境学習活動の拠点施設である犬山里山学センターでの取組を中心に、市民団体の地道な活動に支えられているが、その環境保全の取組を積極的に活用することが必要であるという認識が市域全体に浸透しているとは言い難く、これまで以上に環境保全に対する市民の関心の向上、域外に向けた情報発信及び活動への参画拡大が課題である。

・地球温暖化対策に関する知恵や技術を、市民と市域企業が共に学び、環境に配慮したライフスタイルを送るための学びの場の創造と官民連携体制の構築が急務である。


・数多く残る歴史的資源を維持・継承してきた本市の住民の心の中には、それらが息づきその風景が生活環境の一部となっている。しかし、人口減少や少子高齢化に伴う継承者の不足により、歴史的資源の保護や伝統行事の継承が困難になりつつあり、夜間に管理者が不在となる歴史的建物も多いことから、生活面や防災面の課題が生じている。

また、犬山城やその城下町等の歴史的資源を訪れる観光旅行客の急増等により、慢性的な渋滞や駐車場不足、ゴミのポイ捨てなど、住民生活に悪影響を及ぼす状態となっている。

(2) 三側面の取組

① 経済面の取組

①-1 シェアリングエコノミー(シェアエコ)を活用し産業振興

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 11. 7 11. a	指標:新たにインターネットの体験予約サイトに登録された体験型観光メニューの利用者数(延べ人数)	
	現在(2018年度): 0人	2022年: 160人
	指標:シェアリングエコノミーを活用した駐車場の利用額	
	現在(2018年度): 22,100円	2022年: 300,000円

まちが抱えている課題について、従前のように行政が全面的に介入するのではなく、シェアリングエコノミーの普及啓発を行い、既存のシェアエコプラットフォームを利用して解決する。地域課題の解決を図る中で、サービス提供者には新たな収益源を提供するとともにまちづくりの当事者としての意識付けを促進させる。既に2018年度、2019年度には、総務省モデル事業として駐車場シェア、シェアエコの仕組みを活用した体験型観光メニューの造成に取り組んできた。2020年度以降も、さらなるシェアエコの普及を図る。



【具体的な取組】


- ・駐車場シェアの普及啓発
観光シーズンの駐車場不足を解消する。
- ・シェアエコの仕組みを利用した体験型観光メニューの普及・啓発
体験型観光メニューを造成し、多くの市民が観光に関わり、稼ぐ仕組みを構築することで、観光の多様化と滞在時間の延長による消費の拡大を目指す。
- ・イベント民泊の実施
大規模イベント開催時等の宿泊施設が不足する際に、個人の自宅等を宿泊施設とし

て利用するイベント民泊を試験的に実施する。「宿泊者とホストの交流」というこれまでの犬山市にはなかった魅力を創り、新たな宿泊者層を開拓する。

・子育てシェア博覧会の開催

子育てシェアをテーマに、シェアエコや従来からのシェアサービスを紹介するイベントを継続する。サービス利用者には子育て支援、提供者には多様な収入確保手段の提供を含めた女性の活躍の促進につなげ、多分野のシェアエコ事業者(軒先パーキング、TABICA)の紹介も行う。

①-2 小さな力で大きく育てる小規模農家の力で産業振興

ゴール、 ターゲット番号		KPI(任意記載)	
 2. 3		指標: 農産物のブランド化の種類数	
	8. 1	現在(2019年1月):	2022年:
	8. 9	3	4

地域の多様な環境の保全に寄与してきた農地だが、担い手の高齢化等により耕作放棄地が増加しつつある。農地を農地として次世代へと受け継いでいくため、多様な担い手となり得る小さな農家の育成を支援する。

【具体的な取組】

- ・農業を身近に感じてもらうための初歩的な講座から、農業者の技術向上に資する講座など、多様な農業講座を開催する。
- ・朝市やマルシェなどの出展者、スーパーへの出品者などとの連携体制を構築し、効果的な援農、必要な支援の検討をする。
- ・連携体制を強化していく中で、犬山産農産物の知名度向上や新たな販路の開拓、6次産業化による特産品の開発などにつながる経営環境の改善を図る。





(事業費)

3年間(2020~2022年)総額: 9,884千円

② 社会面の取組

②-1 みんなで読もう「0歳からはじめる子どもの読書と読解力向上」推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4. 1 4. 2 4. 6	指標：家庭への絵本貸出数	
	現在(2019年度)：	2022年
	950冊	1200冊
	指標：幼保小合同研修会参加人数	
	現在(2019年度)：	2022年度：
	100名	130名
	指標：市立図書館の児童書貸出冊数	
現在(2018年度)：	2022年度：	
154,927冊	159,000冊	
指標：読み聞かせボランティア登録者数		
現在(2019年度)：	2022年度：	
56人	70人	
 4. 1 4. 6	指標：市内小中学校図書館における学校司書の常駐率	
	現在(2019年度)：	2022年：
50%	64%	

【子ども未来園・市立幼稚園の取組】

- ・幼保の関係者を対象に、幼児期における読解力の基礎を養うための研修を行い、保育士、幼稚園教諭の資質向上を図る。
- ・保護者を対象にした「絵本の貸出」「通信発行」「保護者研修会」の開催など、家庭での読書率を上げる取組を実施する。
- ・幼保小の保育・教育関係者を対象にした合同研修会等の開催や、個別に支援が必要な園児を対象にした発達相談を通して、保育士や保護者への助言指導の場を設ける。

【小中学校での取組】

- ・「読む力」を高める読解力向上プログラムの充実を図り、理解力を高めるとともに、感性の輝く教育を進める。
- ・読書活動推進策として、計画的・組織的に各教科の図書館利用カリキュラムを作成するだけでなく、各学校を取りまとめる図書館コーディネーターを配置し、読書量の増加に


つながる学校ごとの施策を計画し推進する。

- ・学校司書を各小中学校図書館に常駐的に配置することで、図書に触れる機会を増やし読書量の増加につなげる。
- ・経済的に恵まれない環境の生徒への学習支援の場として開設している「犬山学び場（みらい）」での取組を充実させ、個々の学習を支援しながら学ぶ意欲の向上を図る。
- ・各校に配置している学校司書、担当教諭、市図書館司書の連携を深めるため、学校連携セミナーを開催する。

【市立図書館の取組】

- ・図書館ボランティアと連携し、市立図書館、児童センター、子ども未来園、小学校等での読み聞かせやブックトークを通じて、読書の楽しさや素晴らしさを伝え、読書活動推進につながる取組を展開する。
- ・「読み聞かせボランティア育成講座」を開催し人材育成を図る。
- ・「子ども司書養成講座」を開催し、子どもの読書リーダーを養成する。

②-2 中間支援機関の強化・充実でまちの課題解決（協働プラザの運営）

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
	17. 16	指標：地域資源バンクの登録件数
	17. 17	現在（2019年3月）： 337件
		2022年： 570件
		指標：対話の場から生み出された事業件数
	現在（2019年3月）： 9件	2022年： 15件

地域課題の要因は複合的であり、解決していくためには多様なセクターの連携・協働が不可欠である。

市内の様々な場所や機会とのマッチングを可能とするため、地域資源バンクを活用し、人的資源情報の見える化を進める。

2017年度から取り組んでいる対話の場「フューチャーセッション@犬山」を発展させ、地域課題を中心に据え、構造を整理し、課題と担い手の間を取り持つ中間支援機能の強化と、それぞれの担い手とのネットワークの構築、人材育成及び連携した行動を生み出す場づくりに取り組む。

【具体的な取組】

- ・分野を問わない社会的活動の支援

- ・地域資源バンクの活用
- ・アウトリーチによる地域資源の情報収集、整理、発信
- ・新たな出会いと対話から、連携した行動を生み出す場(協働プラザ)づくり



犬山市フューチャーセッション2017～ >>> 集まったメンバーが立場を超えて自由に語り合い、対話から協働を生み出す「創造的な語り場」。


(地方創生推進交付金申請予定事業)

(事業費)

3年間(2020～2022年)総額: 58,003 千円

③ 環境面の取組

③-1 みんなで賢いクールチョイス 低炭素社会の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 13. 2 13. 3	指標: COOL CHOICE 啓発関連の講座、イベント実施回数	
	現在(2019年度): 1回	2022年: 7回

気候変動への緩和策としての低炭素社会の形成を目指し、我慢の省エネから質の高い生活をしながらの賢い省エネ・儲かる省エネを提案する。

脱炭素社会づくりのために共感を広げる取組を推進するために、地方と連携した地球温暖化対策活動推進事業を活用し、民間団体と連携し COOL CHOICE 啓発活動を実施する。


【具体的な取組】

- ・COOL CHOICE 観光(環境配慮型観光)を促進
観光施設等におけるクールシェア・ウォームシェアスポットの登録促進や COOL CHOICE 関連の情報を発信し、観光産業や観光客向けの啓発活動を展開



- ・市民を対象に省エネ(エコライフ)セミナーを開催
- ・観光産業などの事業者を対象に SDGs に貢献する COOL CHOICE セミナーを開催
- ・小学生向け省エネ教室を開催
- ・環境フェア(産業振興祭)に市民団体等と協働ブースを出展し、チラシ配布、パネル展示、家庭の省エネ診断等により COOL CHOICE の啓発を実施

③-2 ・歴史的資源・景観と共存した住環境の向上

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11.4	指標:文化財建造物の保存修理件数(累積)	
	現在(2020年2月): 27件	2022年: 29件
	指標:登録有形文化財建造物所有者等研修会参加者数	
	現在(2019年11月): 19人	2022年: 20人

<文化財の保護・活用・啓発>

文化財の持つ価値を維持し、公開することは文化財の保護・活用を図るうえで重要であるため、関係団体等と連携を図りながら普及啓発に努める。また、東之宮古墳(国史跡)において、現在、その公開に向け整備を進めており、新たな文化財の魅力発信基地として役立てる。

<伝統的建造物の保存>

歴史上価値の高い犬山城天守に代表される建造物や犬山祭をはじめとする固有の文化を反映した人々の営みが一体となって形成されてきた城下町の環境を維持し向上する。

歴史的価値の高い建造物を保存し、次世代を担う子どもたちにわかりやすく伝えることで、歴史的建造物と共存した住環境の魅力を発信する。

<犬山祭の伝承・保存>

地域の生活文化の核として住民を結集するうえで重要な役割を果たしてきた犬山祭(ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財)を後世へ正しく伝承する。祭りの継承への支援を通じて、人口の減少と高齢化が進む犬山城下町のコミュニティの存続と活性化を促進する。

<「犬山うかい」若手船頭の育成と伝統漁法の継承>

木曾川うかいの漁法(犬山市無形民俗文化財)の現状の記録を蓄積し、後世への適切な継承を推進する。また、安定した事業継続のために、鶺舟及び観光船の船頭の後継者育成を進める。

【具体的な取組】

- ・文化財建造物の保存活用に向けた修理、調査
- ・登録有形文化財建造物所有者等研修会の開催
- ・有形(車山・からくり人形等)及び無形(年間行事・芸能)の文化財保護施策の推進
- ・保護団体との連携による「IMASEN 犬山からくりミュージアム」のコンテンツ強化と犬山祭及びからくり文化に関する情報発信
- ・木曾川うかいの伝統、技法、用具等に関する詳細な記録の作成

(事業費)

3年間(2020～2022年)総額:124,526千円



(3) 三側面をつなぐ統合的取組

(3-1) 統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)

(統合的取組の事業名)

犬山かがやきプラン推進事業 (読解力の向上による感性豊かな人間力の創造)

(取組概要)

SDGsの17のゴールを「感性」を生かしてつなぎ合わせ、相乗効果を生み出す社会の持続に必要な人が育ち、活躍する「感性豊かな人間力」を創造するために、その基礎となる国語教育の充実と子どもたちの「読解力」の向上に、家庭・地域・学校・図書館が連携して取り組む。

(事業費)

3年間(2020～2022年)総額:79,292千円

(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫)

SDGsの展開には三側面の課題を見つけ、解決に取り組み、未来に向けて新たな価値を生み出す人間力が必要である。

行政、市民、民間企業、市民団体等のそれぞれのエンパワーメントが生まれる原動力こそが「感性」であり、「感性豊かな人間力」を創造することで、SDGsの目標達成に資することになる。

「感性豊かな人間力」を創造するためには、国語教育、特に子どもの頃からの読解力を柱とした学びに取り組む必要がある。

子どもの読解力向上に取り組むことで、大人たちも持続可能な社会の将来像をデザインするきっかけとなり、地域全体で高い相乗効果を生み出し、好影響を与えることとなる。

そこで、読解力向上による「感性豊かな人間力」を創造するために、小中学校の授業づくりに学校図書館の活用や読書活動推進策を盛り込み、研究・実践・検証に取り組む。

具体的には、①市立図書館では保護者に読書の重要性の理解を深めてもらい、乳幼児期から身近に本がある環境を整える。②小学校では授業や学校図書館を活用し読書の習慣づけを行い読解力向上に役立てる。③その効果を検証し授業づくりにフィードバックする。このようなサイクルを回しながら新たな読解力向上モデルを構築することに取り組む。

その出発地点として、市立図書館の一室を読書と多様な学びの活動拠点として整備し、様々なステークホルダーの情報交流を支援することで横展開を図り、さらなる相乗効果を生み出す。

<実施事業1>

国語教育日本一 読解力向上と小中学校授業改善

「読む力」を高める読解力向上プログラムの充実を図り、理解力を高めるとともに、感性の輝く教育を進める。共通の目標をもって実施される授業研究会に加えて、質の高い授業の情報を共有し、授業づくりへの効果を高めるために、段階的なねらいと対応策を具現化する。

読書活動推進策として、計画的・組織的に各教科の図書館利用カリキュラムを作成するだけでなく、各学校を取りまとめる図書館コーディネーターを配置し、読書量の増加につながる学校ごとの施策を計画し推進する。

学校司書を各小中学校図書館に常駐的に配置することで、図書に触れる機会を増やし読書量の増加につなげる。

- ・図書館利用カリキュラムの作成・活用
- ・リーディングスキルテスト実施・検証
- ・図書館コーディネーター配置、学校司書の常駐配置

- ・図書館改造
- ・読書活動推進委員会の発足

<実施事業2>

活動拠点「子ども読書空間」整備

市立図書館は中心市街地に位置し、犬山城下町にも近く、子ども、子育て中の保護者、高齢者、観光客等、様々な人が集まるポテンシャルを有している。

読書を通じ、思考力、創造力、自己認識力、コミュニケーション力等を身に付け、感性豊かな人に育てるために、家庭・地域・学校・図書館と連携した読書活動推進事業を展開する。

市の専門拠点(犬山市文化史料館、犬山里山学センター、協働プラザ)で活躍する子どもたちを育てるための活動拠点として「子ども読書空間」を市立図書館内に整備し、子どもの読書活動、様々な学びのきっかけ作り、情報交流等を推進する。

- ・子ども読書活動推進、様々な学びのきっかけ作り、SDGs推進等セミナー開催
- ・「子どもたちに届けるおすすめブックリスト」を制作・配布
- ・市民参加型図書館応援組織の設立
- ・感性豊かな人づくりにつながる活動拠点「子ども読書空間」を市立図書館内に整備

<統合的取組で目指すイメージ>



育った人材が17のゴールを感性でつなぐ

(3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

(3-2-1) 経済⇄環境

(経済→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: COOL CHOICE啓発に関する講座等の参加者数	
現在(2019年度): 18人	2022年: 100人
指標: 文化財建造物の保存修理件数(累積)	
現在(2020年2月): 27件	2022年: 29件

「犬山かがやきプラン推進事業」で人の感性が豊かになり、地域資源の魅力に目を向け多面的につながることで、経済面において、既存の地域資源を活用したシェアリングエコノミーの浸透・利用増加、農産品・特産品を生み出す取組が進み、観光産業がさらに活発化することで、環境面において、これまで受け継がれてきた文化財からなる魅力的な景観を保存・活用する意識の向上と、低炭素社会の推進につながる「COOL CHOICE」の啓発活動が促進されることで自然環境全体の保全意識が高まり、住環境も向上する。

(環境→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 主要な観光施設への観光入込客数	
現在(2018年): 262万人	2022年: 269万人
指標: 市内民営事業所数	
現在(2016年): 2,545箇所	2022年: 2,545箇所

「犬山かがやきプラン推進事業」で人の感性が豊かになり、地域資源の魅力に目を向け多面的につながることで、環境面において、これまで受け継がれてきた文化財を保存・継承すること、魅力的景観や自然の大切さを見直し、「COOL CHOICE」の取組の意義を学び儲かる省エネを実践することを通じ、経済面において、エコツーリズムの推進、民泊や交流人口の増加、農産品・特産品の開発に向けた取組が進むことや、省エネで生み出さ

れた資金を経済活動に回すことで、新たな消費が促進され地域経済が活性化される。

(3-2-2) 経済⇄社会

(経済→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 地域資源バンクの登録者数	
現在(2019年3月) 337人	2022年: 570人
指標: 東児童センター(さんにいれ)で開催する講座等参加人数	
現在(2019年): 69人	2022年: 130人

「犬山かがやきプラン推進事業」で人の感性が豊かになり、多面的につながり地域資源の魅力を発見・新たな価値を生み出すことで、経済面において、農産品・特産品開発やエコツーリズムの推進、シェアリングエコノミーの浸透・利用増加によって観光産業がさらに活性化することで、社会面において、人の交流が生まれ、地域のつながりが強まり、子育て世代やシニア世代の活躍の場が創出され、多くの人々が参加するまちづくりが促進される。

(社会→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 市内民営事業所数	
現在(2016年): 2,545箇所	2022年: 2,545箇所
指標: 主要な観光施設への観光入込客数	
現在(2018年): 262万人	2022年: 269万人
指標: 人口	
現在(2019年3月末): 74,007人	2022年: 73,373人

「犬山かがやきプラン推進事業」で人の感性が豊かになり多面的につながることで、子ども

もと一緒に大人も学び、社会の将来像を共にデザインすることで郷土愛が熟成し、子育て世代やシニア世代の活躍の場が創出され、経済面において、まちの魅力が向上し、人が集まり新たな消費につながり、地域経済が活性化され、定住人口が増加する。

(3-2-3) 社会⇄環境

(社会→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: COOL CHOICE啓発に関する講座等の参加者数	
現在(2019年度): 18人	2022年: 100人

「犬山かがやきプラン推進事業」で展開する、多様な学び(地域の自然、歴史、文化、景観等)、様々なステークホルダーとの情報交流の中で人の感性が豊かになり多面的につながることで、郷土愛が熟成され、環境面において、地域の自然、まちの景観等の保全・継承の意識が高まり、このことをきっかけに、一層、自然環境全体に対する保全意識が向上し、実践する人材の育成が図られる。

(環境→社会)

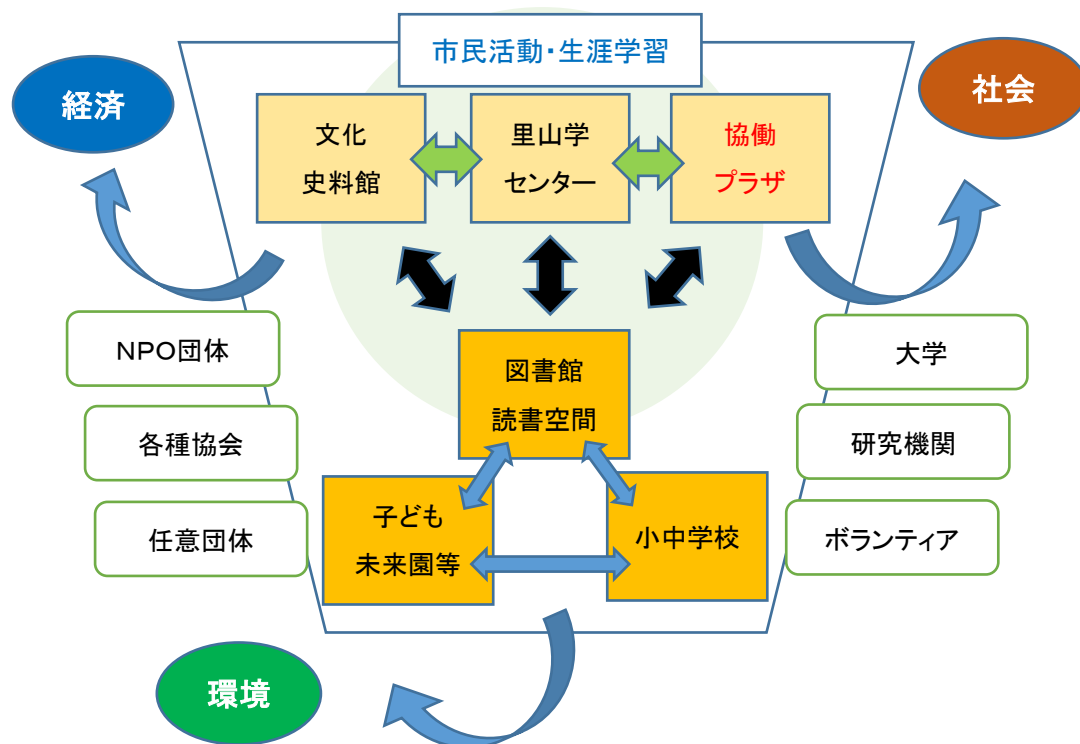
KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 地域資源バンクの登録件数	
現在(2019年3月) 337件	2022年: 570件
指標: 対話の場から生み出された事業件数	
現在(2019年3月) 9件	2022年: 15件

「犬山かがやきプラン推進事業」で人の感性が豊かになり多面的につながることで、地域の自然や景観等の環境保全・継承に関心を持つきっかけとなり、環境面において、資源を大切に利用し、COOLCHOICE活動や歴史的資源と共存することへの理解が深まることで、社会面において、女性、若者、高齢者等の幅広い市民の社会活動参加を促し、市民一人ひとりがまちづくりに参画することで、共生の意識が醸成され、地域コミュニティが向上する。

(5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

(事業スキーム)

新たに整備する子ども読書空間、小中学校、子ども未来園等と市内の各拠点(犬山市文化史料館、犬山里山学センター、協働プラザ)が連携し、未来を担う人材を育成し、経済・社会・環境の各側面で活躍する。この学びのスキームに各ステークホルダーが参加・活用できる仕組みとし自律的な好循環につなげる。



(将来的な自走に向けた取組)

輝く感性を育てる出発地点として、市立図書館の一室を多様な学びの活動拠点として整備することで、様々なステークホルダーとの横展開を図る。

行政、大学等研究機関、NPO等各種団体と、市内の各拠点(犬山市文化史料館、犬山里山学センター、協働プラザ)が連携し、これまでの学びに加え、SDGsの取組が見える形での新たな学びと協働の場をつくることからスタートすることで、人材育成の重要性の理解を深め、ステークホルダーへSDGsの取組拡大を図る。

学びの場で育成された担い手が、市内の各拠点(犬山市文化史料館、犬山里山学センター、協働プラザ)で活躍することで人材の好循環を生み出す。

この取組モデルをステークホルダーが参加・活用できるよう支援し、多様なステークホルダーとの自律的な人材育成システムの構築につなげていく。

(6) 資金スキーム

(総事業費)

3年間(2020～2022年)総額: 270,954 千円

(千円)

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつな ぐ統合的取組	計
2020年度	2,228	19,352	40,626	49,265	111,471
2021年度	3,328	19,352	40,900	14,638	78,218
2022年度	4,328	19,299	43,000	14,638	81,265
計	9,884	58,003	124,526	78,541	270,954

(活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定 年度	活用予定額 (千円)	活用予定の取組の概要
地方創生推進交付金 (内閣府)	2020 ～2022	32,971	・シェアエコを活用した産業振興の取組の各 事業に活用予定 ・中間支援機関強化充実で課題解決の取 組の各事業に活用予定. ・歴史資源・景観と共存した住環境向上の 取組のからくりミュージアムのコンテンツ強 化に活用予定 (申請中)
二酸化炭素排出抑制対策事 業費等補助金 (環境省)	2020 ～2022	15,000	・みんなで賢いCOOL CHOICE 推進の取組内 の各事業に活用予定 (申請予定)
社会資本整備総合交付金 (国土交通省)	2020 ～2022	12,000	・歴史資源・景観と共存した住環境向上の 取組の伝統的建造物保存修理に活用予定 (申請中)

(民間投資等)

本市の取組をインターネット等で公開し、クラウドファンディング型のふるさと納税の活用を検討する。

※改ページ

(7)スケジュール

	取組名	2020年度	2021年度	2022年度
統合	国語教育・読解力向上と小中学校授業改善	図書館コデイナー配置、図書館カフェ作成・活用 読解力向上委員会発足4月 読書量増加の実践・検証（有識者による助言） 読解力向上検証	読解力向上検証	読解力向上検証
	活動拠点「子ども読書空間整備」	整備工事 7月～12月 オープン準備 1月～3月 3月末竣工	読み聞かせ会開催 通年 SDGs推進セミナー開催 通年	読み聞かせ会開催 通年 イベント等SDGs普及 通年
経済	①-1 シェアエコを活用した産業振興	イベント民泊試験実施・営業活動(通年) 体験型観光メニュー造成・営業活動(通年) 説明会(10月) 普及イベント(1月) 駐車場シェア説明会(11月) シェア博覧会(12月)		
	①-2 小規模農家の力で産業振興	農業講座新設・販路開拓及び援農体制構築・ニーズ調査・支援メニュー検討	農業講座開催(通年) 支援メニュー(試行)	支援メニュー(導入)
社会	②-1 子どもの読書と読解力向上推進	保育合同研修会(年1回) 絵本貸出し(通年)・通信発行(年5回程度)・保護者研修会(年1回) 幼保小合同研修会の開催(年1回)・発達支援相談(月2回)		
	②-2 中間支援機関強化充実で課題解決	社会的活動支援 協働プラザを中心とした支援(運営基盤整備) 地域資源バンク活用・既存情報の整理・人材発掘・育成・マッチング・情報収集(随時) 連携した行動を生み出す場【フューチャーセッション】9月～3月(月1回)	協働プラザ本格運営 【フューチャーセッション】7月～3月(月1回)	
環境	③-1 みんなで賢いCOOLCHOICE推進	COOLCHOICE観光(エコビル・ケルシア・ウオムシア)観光客向け啓発、展開 普及啓発 市民セミナー(9月)・企業SDGsセミナー(10月)・子供省エネ(11月)・環境フェア出展等		
	③-2 歴史資源・景観と共存した住環境向上	文化財 伝統的建造物保存修理(3か年) 所有者等研修会開催 犬山祭(車山・からくり人形復元新調)1町内 からくりミュージアムのコンテンツ強化 ワークショップ(年1回)・企画展開催(年2回)	所有者等研修会開催 犬山祭(車山・からくり人形復元新調)1町内 コンテンツ強化(継続)	所有者等研修会開催 所有者等研修会開催 コンテンツ強化(継続)

2020年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル: 社会の魅力を発見・継承する「感性豊かな人間力」の創造 提案者名: 愛知県犬山市

全体計画の概要:
 豊かな自然と歴史の恵みに生まれ受け継いできた文化、その中で培われた地域の絆の強さといった本市が有する社会的資源について、ここに暮らす人々が学び、その魅力を活用し、新たな価値を生み出すことで、経済的に潤い、社会的つながりを強め、自然を守りつなげることで、豊かで輝きのあるまちづくりを実現する。

1. 将来ビジョン	地域の実態	2030年のあるべき姿
	犬山市は愛知県の最北端に位置し、市の北には木曾川、市の西部は市街地・農地・工業地、東部は緑豊かな里山が広がる丘陵地である。国宝犬山城や犬山祭(ユネスコ無形文化遺産)など、多くの歴史的風致が今も点在し犬山祭などの文化も継承されている。以前から少人数学級や副教本の作成など独自教育に力を注いでいる。	犬山市の地域特性や自然・文化資源を展開する中で、特に子どもの読解力向上に力を入れ、今後想定される経済・社会・環境面のリスクを共通課題として認識し、人を中心に自然や歴史など地域の魅力ある資源を最大限に生かし新たな価値を生み出しながら持続していく個性のあるまちづくりが進んでいる。
	2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	(経済) 地域資源を活用しみんなが潤う産業振興(みんなで稼ぐまち犬山) (社会) 地域の未来を担う感性豊かな人づくり(学び・考え・行動するまち犬山) (環境) 地域資源から学び未来につなげる自然と生活環境(自然と歴史が持続するまち犬山)



2. 自治体SDGsの推進に資する取組	自治体SDGsに資する取組	情報発信	普及展開性
	① 観光を産業の柱へ みんなが潤うまちづくり ② 木曾川河川空間を活用した経済の活性化 ③ 生涯にわたりみんなが学ぶまちづくり ④ 独自教育の推進 ⑤ 子育て世代と女性の活躍があるまちづくり ⑥ 水辺空間の保全 ⑦ 里山を守り活かす学びの場づくりと担い手の育成	市の各種媒体に加えて、地元タウン誌、地元FM放送局とも連携し、民間企業や各種団体に対して積極的にSDGsの情報を発信していく。 東海地区でも有数の観光地であるメリットを生かして外国人観光客にも本市の取組を紹介する。 国内外の姉妹都市や友好都市にも情報発信を行い、連携を図っていく。	豊富な地域資源を活かしたSDGsの達成を担う人材育成が目的であるが、子育てや小中学校における教育充実は人口減の課題を持っている多くの自治体が、移住・定住の目玉として掲げている分野であり、本市の先進的な取組は全国の自治体が注目し類似の地域資源を持つ自治体へ普及展開していく可能性が高い。また、本市で学んだ人材が活躍することが取組の普及展開につながるものである。

3. 推進体制	各種計画への反映	行政体内部の執行体制	ステークホルダーとの連携
	市の主要な計画にSDGsの目標を記載し推進する。 1. 犬山市総合計画 2. (第2期)いいね！いぬやま総合戦略(地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略) 3. 犬山市環境基本計画 4. 犬山市子ども・子育て支援事業計画	犬山市のSDGs実現のための取組の推進に係る本部機能として、市長をはじめ、全庁の幹部が一堂に会する経営会議を位置づけ、計画や取組の全庁共有や部局間連携の調整を行う。	産業振興会議や産官学連携推進協議会などで、SDGsについて取り上げ、ステークホルダーと連携した取組方法を検討する。京都大学霊長類研究所など市内の学術研究機関との連携も検討する。 SDGs未来都市選定自治体や、国内外の友好都市・姉妹都市とも横連携を深める。
	自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等	市内民間企業と連携し、自律的好循環の体制構築に向けた登録・認証制度の構築に向け下記の事項を検討している。 1. 講習(研修)受講証明書の発行・・・講習(研修)を開催し、受講者に証明書を発行する 2. 既存の制度への登録・認証支援・・・市内事業者(事業所)が既存の登録・認証制度を活用しようとするときに市が支援を行う。	

自治体SDGsモデル事業名: 新しい価値を生み出す「感性豊かな人づくり」

提案者名: 愛知県犬山市

取組内容の概要: 豊かな自然と歴史の恵みに生まれ受け継いできた文化、その中で培われた地域の絆の強さといった本市が有する社会的資源について、ここに暮らす人々が学び、その魅力を活用し、新たな価値を生み出すことで、経済的に潤い、社会的つながりを強め、自然を守りつなげることで、豊かで輝きのあるまちづくりを実現する。

